



# ゆったり文字を書ける場を

## みやぎ生協学校部が毛筆・硬筆書きぞめ指導教室を開催



「何でもいから賞をとりたいです！」と練習に励む子どもたち。4人の先生が指導しました。

2012年12月22日・23日、みやぎ生協学校部が石巻エリアの子どもたちを対象に、仮設住宅の集会所や市役所支所など4カ所で「書きぞめ指導教室」を開催しました。



硬筆も一人ひとり丁寧に指導。

みやぎ生協学校部が石巻エリアの子どもたちを対象に開いた「書きぞめ指導教室」。河北総合センター（石巻市）の教室には、被災のため河北地区おがつに引っ越ししてきた雄勝小学校の子ど

もたちをはじめとした石巻地区の子どもたち15人が参加し、「宮城県小中学校児童生徒書きぞめ展覧会」（仙台市・2月16日～18日開催、宮城県小中学校教育研究会書写研究部会主催）に向けて練習をしました。

子どもたちが目指す展覧会は1947年にスタートし、2013年2月の開催で66回目を迎えます。毎年、県内ほぼすべての小中学校が参加します。

今回の書きぞめ指導教室の発案者であるみやぎ生協学校部の阿部 正則さんは、「震災で学校は仮校舎。狭くて、毛筆をゆったり書ける場所も作品を展

示する場所も少ない。宿題として家に持ち帰っても仮設住宅だと狭くて書くのが難しい。その中でも、字を正しく美しく書きたい、書きぞめをしたいと思っている子がいるはずで、その子たちのために、心置きなく文字を書ける場をつくろうと思ったんです」と話します。

展覧会の字句は、その時々<sup>の</sup>世相を反映したものが選ばれ、今年は「夢」や「出発」です。「子どもたちの夢や希望が叶うような書きぞめ教室であり、展覧会であればいいなと思っています」と阿部さんは笑みを浮かべました。